

謹 弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

松 岡 勝 之 氏 熊毛郡医師会 6月2日 享年 81

編 集 後 記

今年5月17日に福島県郡山市で開催された、日医主催の第19回男女共同参画フォーラムに参加しました。福島市唯一の造り酒屋の会長さんの基調講演から始まったこともあり、懇親会での福島の地酒のラインナップは、素晴らしいものでした。私たち山口勢は、小さなお猪口を持って福島地酒チーム制覇に挑みましたが、厚い布陣に阻まれ、楽しい敗北を迎えることになりました。

しかしこの「男女共同参画」という言葉、どうも据わりが良くないと思いませんか。私なんか、以前はつい頭の中で「男女挙動?」「三角関係?」と誤変換しがちでした。この「男女共同参画」は、「gender equality」に対応する言葉として政府が使い出したそうです。誰もが平等に社会に参加するという高邁な意味が込められているのでしょうか。高尚な理解力に乏しい私などは、シンプルに「平等」でいいだろうにと違和感を持っています。「共同参画」など、生活実感に乏しい言葉は、ゴールを曖昧模糊としたベールの向こうに霞ませるように思いませんか。

さてこの男女共同参画フォーラムは、第1回が2005年に開催されました。メインテーマは『女性医師は何を求め、何を求められているか』とまず女性医師が自らの存在を問うところから始まっています。以後のフォーラムのテーマをいくつか挙げます。

第6回『男女共同参画のための意識改革』。第10回『医療界における男女共同参画のさらなる推進に向けて～10年間で医療界における男女共同参画は進んだのか～』。第14回『次世代がさらに輝ける医療環境を目指して～超高齢社会で若者に期待する』。第17回『働き方改革に寄与する男女共同参画を目指して』。第18回『超高齢社会に向けての男女共同参画～人生100年時代における多様な医師の働き方～』。

そして今年第19回男女共同参画フォーラムのメインテーマは、『ダイバーシティを踏まえたキャリア支援』。

先達の女性医師、男性医師の20年間の歩みにより、医療界も変化してきました。それに伴いフォーラムのテーマがより包括的に進化しています。男性医師が困難を抱えて働く環境は、女性医師にとっても同様です。女性医師が働きやすい環境では、男性医師もキャリアだけではなくプライベートも大切にできると思います。

どうぞ皆様、男女共同参画を少し身近なものとして捉えてください。誤変換なしに。

(常任理事 長谷川奈津江)